

文化

河北新報[文化]

12 08 16(木)

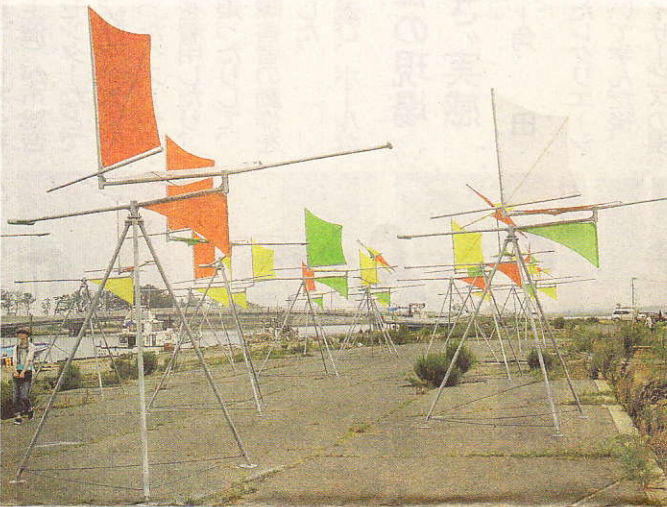
潮風に揺れる祈りの作品

名取・関上でアートプロジェクト

風や水など自然エネルギーで動く作品で世界的に活躍する造形作家新宮晋さん(75)＝兵庫県三田市＝のアートプロジェクト「元気キャラバン関上」が、東日本大震災で被災した名取市関上で行われている。19日まで、世界の人々が制作した「元気のぼり」と、新宮さんが11年前に発表した「ウインドキャラバン」を設置。鎮魂と復興への祈りを込めた作品が、爽やかな潮風に揺れている。

新宮さんは、宮城県美 施した。こいのぼり型の術館(仙台市青葉区)に 白い布に被災者を励ます作品が設置されている縁 絵やメッセージを描くと、月、同美術館中庭に展示された。のぼりプロジェクトを 実 イツなどの約600人が

新宮さんのウインドキャラバン。復興に向け立ち直ってほしいという願いが込められている



参加し、約100本ののぼりが完成。今年4～5月、同美術館中庭に展示された。「ウインドキャラバン」は2000～01年に、先住民が暮らす自然の中など世界6カ国に設置した21基の野外彫刻。色鮮やかな旗と鉄のパイプによる高さ約5層の作品の下では、現地の人とさまざまな交流を行った。

二つのプロジェクトを合わせた今回は、震災から1年5カ月が経過した今月11日に展示開始。関上漁港にウインドキャラバンを設置し、元気のぼりを関上小、佐々直本店工場跡地、中貞山運河に飾った。近くの日和山には、地元の人やボランティアがメッセージや

19日まで

国内外600人のメッセージ描画 激励ののぼりなど設置

絵を描いた風車200本にはさまざまなことを考で「元気」の文字を作った。人間が地球全体のことを考えた。フィンランドの北極圏では青、ブラジルの砂漠では緑と、旗の色は単色だったが、今回は赤、黄、緑、白の4色。被災者を元気づけようと、大漁旗をイメージした。新宮さんは「キャラバンの終着駅のような感じだ。ここには震災も経験している新宮さん。今回のプロジェクトは出発点で、発展していく」と話す。

人間と自然との共生をテーマにしてきた新宮さんにかかると、何らかの形で人にとつて、原発事故もアーティストとして協力引き起こした今回の震災「したい」と語った。



200本の風車で日和山の斜面に作られた「元気」の文字

岩沼市・長田博司氏送付